青葉匂う

四日市市立港中学校通信
令和元年度　第６号
６月１２日（水）発行

メリハリのある行動ができた修学旅行！　生涯共通の思い出に！



中学校生活最高の楽しみである修学旅行もあっという間に終わりました。２泊３日で国会議事堂を皮切りに、東京都内の施設や事業所、ＴＤＬなどを訪ねました。天候は、雨が心配されましたが、３日間天候に恵まれ、すべての活動が予定通りできました。

今回の修学旅行を通して、「学年のリーダーの規範意識が高く、全体がまとまることができたこと」「笑顔が多く明るかったこと」「決められた時間を守れたこと」「集合が速やかで、静かに待てたこと」「班別行動においても公共の乗り物や施設でマナーを守れたこと」「班の形を崩さずに学習できたこと」など良かった点がたくさんありました。特に、２ 日目の都内分散学習においては、訪問先への班別の移動の様子を含めて、自主的かつ自律的に行動し、教師の予想以上の成果が得られました。

分散学習は、「明治大学」「早稲田大学」の有名大学見学により進路意識を高揚したり、「JAL 機体工場」「最高検察庁」「警視庁交通管理センター」「昭和館」の見学により職業観を養ったりすることをねらいとして、本校の大切にしているキャリア教育の一環として行っています。

３日目は、平和教育の取組として、施設が新しくなったばかりの「第五福竜丸展示館」を訪問しました。ここでは、昭和 29 年にアメリカがビキニ環礁で行った水爆実験により被災した船体と付属品、死の灰、航海日誌や様々な写真パネルの展示を見ながら、ガイドさんから詳しく説明を受けました。是非ご家庭で感想を聴いてあげてほしいと思います。

この修学旅行で得た様々な経験と新たな発見を活かして、挑戦することへの意欲を持って、今後の学校行事や進路選択に力を発揮してほしいと思います。

親と子の良い歯のコンクール結果　おめでとう！！

良い歯学校代表	３年：　永井玖愛			
図画ポスターの部	最優秀賞	２年：田澤永吉	優秀賞	３年：樋口就則

生徒の活躍

4/27	バスケットボール男子HRカップ	優秀選手賞	３年：黒宮琉義
5/6	バスケットボール男子第6回三泗招待試合	優秀選手賞	３年：籾山竜河
6/8	第42回四日市市中学校カーニバル　女子100mH	8位	２年：平岡夢萌
6/9	同上大会　低学年女子４×100mリレー	２位	

１年生防災教室を開催　５月３０日（木）午後、体育館にて、四日市中消防署職員の指導のもと、防災教室を開催しました。内容は、映像を使った「防災講話」の後、「応急手当実技」と「起震車体験」の２つのグループに分かれ活動しました。起震車では震度７体験もありました。各家庭でも、「家庭防災手帳」を活用し、お子さんとともに家族の避難場所の確認や防災グッズの確認をしておいてください。

特集 「なぜ同じ授業を受けていて差がつくのかな？」

クラスで勉強がよくできる生徒がいて、「同じ授業を受けていてなぜ、あの子はできるのだろうか？同じことを学んでいるにもかかわらず、差がついてしまうのはなぜ？自分もしっかり勉強しているのになぜ？」こうした思いをしたことは、ありませんか。校長の私も中高校生の頃、周りの仲間を見て、何度も何度も思い悩んだことがありました。

生徒の皆さんの中には、「やっぱり頭の構造が違うからな」とか「遺伝だから仕方ない」などと言って、すぐにあきらめてしまう人もいるでしょう。もちろん、生まれながらして優れた天才や遺伝的に優れた人がいることは否定できません。しかし、そのような人は非常に少なく、身近に何人もいるわけではありません。

実は、勉強ができる人とそうでない人の違いは、勉強のやり方なのです。確かに、勉強にはできるようになるメカニズムというものがあり、それに沿えばある程度、誰でもできるようになります。

では、同じ授業を受けていて、差がついてしまう理由は、何なのでしょうか？

ある教育研究者が、3,000 人以上の生徒を直接指導し、さらに東京大学大学院に 6 年以上通い、学生に聞き取りした結果、次のようなことが分かったそうです。

それは、「できる子は、勉強時間以外も学んでいる」ということです。つまり、できる子は、「授業」や「家庭学習」の時だけでなく、それ以外の時においても、いつも思考をめぐらせ学んでいると言うのです。

「学び」のタイプは 3 つに分けることができます。

(1)授業を受けていても学んでいない人

(2)授業だけが学びの人(「勉強」の場だけが学びの人)

(3)寝ているとき以外の日常すべてが学びの人　　この 3 つです。

(1) 授業を受けても学んでいない人とは、ただ椅子に座って、黒板の文字を書き写すだけで、先生の説明や級友の発言にしっかりと耳を傾けない人のことです。そのような人は、先生の雑談の時だけ耳のスイッチが入り、また授業の内容にもどると、再び上の空になって、ただノートに写しているだけの場合がほとんどです。皆さんの中にこのような人はいませんか。中学校生活の多くの時間を占める授業時間をこのように過ごしていたのでは、もったいないですね。

(2) 授業だけが学びの人(家庭学習も含め「勉強」の場だけが学びの人)とは、授業をしっかりと受けて、さらに家では予習復習や宿題など、「勉強」する時間を設け、しっかりと学んでいる人をいいます。このような人は、努力を重ねることによって、学校で比較的上位の成績がとれます。

(3) 寝ているとき以外、すべてが学びの人とは、街を歩いているときも、テレビを見ているときも、人と話をするときも、「勉強」しているという意識がないときでも、五感を使って様々なことを感じたり、気づいたり、疑問を持ったりして、何事も深く考える人のことです。このような人は、思考が活性化し、表現力も身につき、教養が豊かになります。このような人が最もできる人で、皆さんの周りに何人もいます。

家から学校や駅までの間を歩いている場合を想像してください。普通は特別な事故や大きな変化がなければ、なんとなく通り過ぎるところでも、(3)のタイプの人は、多くのことに気づき、そこから考えたりするのです。ですから得られている情報量が(1)や(2)のタイプの人に比べ圧倒的に多くなります。

では、どうすればこのタイプ(3)になれるのでしょう。

違いは、授業中だけでなく、日常のあり方に大きな差があるわけですから、「気づく楽しさ」「知る楽しさ」「考える楽しさ」を理解する必要があります。しかしそう簡単に、そのような楽しさを理解することはできません。すぐに理解できるかどうかはわかりませんが、次の方法で試してみてください。

それは、「人の意見を聞いて、賛成や反対にかかわらず、自分とは逆の立場で考えたり、考えたことを自分の言葉で発表したりする」ことです。授業でも「別の見方はないかな？」「ほかの方法は考えられないかな？」などといつも多面的に考える習慣を身につけましょう。

そのことによって、人は自然と「気づき→知り→考える」ようになっていきます。これを習慣にすると、物事のとらえ方が変わってきます。今日から試してみてください。

ただし、大切にしてほしいことがあります。それは、他の人が考えて発言したことを、否定しないことです。